

病院で取り組んでいる様々な事業についてご紹介します。

脳卒中・心臓病等支援センターについて

脳卒中、心臓病その他の循環器病は、徳島県はもとより、全国でも主要な死亡原因であるとともに、介護が必要となる主な要因となっています。循環器病は、遺伝的素因をベースに生活習慣病の合併症として急性発症する疾患であり、回復後においても「増悪」と「寛解」、「再発」を繰り返すことがあることから、「予防」・「急性期」・「回復期」・「慢性期」・「在宅医療」・「介護期」に至るまでシームレスな医療・介護体制の整備が必要です。

こうした課題に対応するため、健康病対策基本法が2018年に成立し、現在、様々な施策がなされています。徳島大学病院脳卒中・心臓病等総合支援センターは、国のモデル事業に応募して、先行実施して効果を検証するための10府県の一つとして採択され、令和4年8月に設立されました。循環器内科、脳神経外科、心臓血管外科、脳神経内科などの各連携診療科の医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、理学療法士、MSWなど多職種で構成され、職種間の垣根をなくした円滑な連携を目指しています。

当センターは、徳島県における脳卒中・心臓病等の循環器疾患に対する診療連携体制の構築、地域の患者・家族への相談支援及び地域の医療機関との連携、循環器病に関する情報提供など、徳島県内全体の患者支援体制の構築を目的としています。具体的には、県民の方ならどなたでも利用できる無料相談窓口を設置し、脳卒中・心臓病に関する困りごとやお悩み事などに看護師や医療ソーシャルワーカーが窓口となり、直通電話や対面で対応しております。また、循環器病について、予防に関する内容も含めた情報提供及び普及啓発を行っており、県民公開講座や街頭啓発、出張相談会を行って成果をあげています。さらには、地域の医療機関、かかりつけ医やメディカルスタッフを対象とした研修会の開催を行っています。

様々な取り組みや啓蒙資料は、随時ホームページにて更新しています。一人でも多くの住民や患者の皆様、職員の方にお訪ねいただき、気軽にご相談いただければ幸いです。脳卒中や心臓病で苦しむ県民が一人でも減るように活動していきたいと思いますので今後とも何卒宜しくお願いします。

脳卒中・心臓病等支援センター センター長 佐田 政隆



(写真1) イオンモール徳島で行った街頭啓発や出張相談の様子

NEWS・イベント大募集！

「Harmony」は、病院職員を対象に、院内情報の伝達や職員のコミュニケーションの活性化などを目的として発行しております。行事やイベントなどのNEWSや院内で周知してほしいTOPICSなどがありましたら、どんどん病院総務課広報・企画係 (bsoumuss1@tokushima-u.ac.jp) までお寄せください。また「Harmony」で取り上げたら良いと思うテーマなど、ご意見・ご提案もお待ちしております。



原田副病院長（総務担当）に、最近感じたことについて寄稿いただきました。

先日NHKの人気番組の「チコちゃんにしゃられる」をみていると、「枕が変わると眠れないのはなぜ？」という質問があって、その答えは「食われると思うから」というのがありました。その答えの説明にデフォルトモードネットワーク(DMN)が紹介されていたのに少し驚きました。DMNというのは安静時機能的MRI等の研究によって注目されるようになった神経結合ネットワークであり、ヒトが活動していないときや寝ているときに最も機能し、考えたり動いたりする活動によって抑制されるネットワークとして知られています。私も神経疾患におけるDMNの変化が診断や脳機能評価に使えないか研究しています。このDMNの役割については諸説あるのですが、番組では何時食われるかわからない原始時代の脳の警戒システムとして紹介されていました。確かに一般の方への説明としてはわかりやすく、興味を持ってもらえると思います。

DMNの検出には脳内の血流や代謝を測定する器具が必要ですが、最近では睡眠の時間をはじめ睡眠の深さや質についても体動モニターで測定することができます。Apple Watchでも同様の機能を有しており、私も利用しています。1週間の平均睡眠時間がどれぐらいで、どれぐらい深く寝ているかがわかり、生活リズムを知るのに役立ちます。同様にApple Watchでは脈拍数や不整脈、動脈血酸素飽和度もチェックできます。また、今は測定できませんが、既にAppleが特許を取得しているとされる血圧測定機能も近いうちに搭載されると評判ですし、血糖値測定の特許も申請しているとのこと。このように非侵襲的な生体モニター機能を有するウェアラブル機器の開発は進んでおり、簡単に健康チェックができるようになることは医療にも良い影響を及ぼすと思っています。

将来的にはウェアラブル機器に睡眠パターンからDMNの活動を推測するプログラムやアルツハイマー病等で増加するとされるアミロイドやタウ蛋白の計測までできる機能が追加されるのではと期待が膨らみます。そうなればウェアラブル機器のマーケットは広がり、健康寿命の延長に大きく寄与するようになるのではないのでしょうか。医療人として、このような開発にも貢献したいものだと思っている今日この頃です。

副病院長（総務担当） 原田 雅史



（図）デフォルトモードネットワークの例示：自験例。

令和5年度病院執行部新役員（病院長補佐）の方々に寄稿いただきました。

教育・研究・地域連携担当

脇野 修 病院長補佐



4月より病院長補佐（教育・研修・地域連携担当）を拝命いたしました。地域連携については慢性腎臓病の医療連携について仕事しており、大学病院、地域中核病院のみならず開業医の先生方とも歩調を合わせた医療連携の重要性を痛感しております。医師の育成については前任の安倍正博先生の情熱を大きな参考にして「徳島県に残りたくなる医師の育成」に努めたいと思っております。微力ながら、全力を尽くしたく存じますので、ご指導の程宜しくお願い申し上げます。

研究・キャリア支援担当

滝沢 宏光 病院長補佐



4月より病院長補佐（研修・キャリア支援担当）を拝命いたしました。医療職や事務職の生涯研修とキャリア形成の支援に取り組んで参ります。医師部門では、卒前教育、初期臨床研修、専門研修の担当部門の連携、また県内県外の関連施設との連携を強化することで、充実した研修環境を整備し、多様なキャリアプランを提供できるようにいたします。患者さんからだけでなく、学生や医療者からも選ばれる徳島大学病院を目指して尽力する所存です。どうぞ宜しくお願い致します。

経営企画担当

高山 哲治 病院長補佐

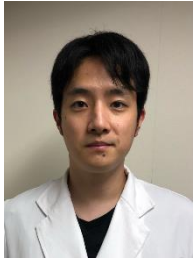


4月より経営企画担当の病院長補佐に就任しました消化器内科の高山哲治と申します。消化器内科、内視鏡センターでの診療に加え、癌診療連携センターのがんゲノム部門も担当しております。病院長、副病院長をサポートして病院機能の発展に努めたいと思います。また、病院経営の改善を図るとともに、患者さんにとって快適な病院環境になるように努めたいと思います。さらに、高度な消化器内視鏡診断・治療、がん治療にも取り組んでいきたいと思っています。

令和5年度 新採用職員についてご紹介しす

耳鼻咽喉科・頭頸部外科

國方 脩登 医員



令和5年4月より、耳鼻咽喉科・頭頸部外科の後期研修医として赴任いたしました國方脩登と申します。徳島大学を卒業後、香川県の高松赤十字病院で初期研修を終え、徳島に戻ってまいりました。

仕事が始まったばかりではありますが、病棟業務や手術等、様々な経験をさせていただいており、学会発表などのイベントも目白押しで、忙しくも充実した日々を送っています。新しい環境にも徐々に慣れてきたかなと感じているところです。

休日はドライブがてら、ゴルフの練習や買い物をしたりしています。また、まとまった時間があれば、香川県の実家で犬を飼っているの、会いに行きたいなと思っています。

まだまだ未熟ではありますが、今後は耳鼻科咽喉医として成長し、少しでも多くの患者さんに高度な医療を提供できるよう、精進してまいりますので、ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。

矯正歯科

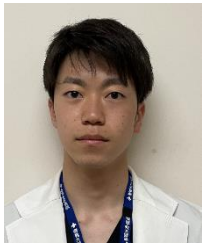
比嘉 佳基 医員



徳島大学病院のみなさん初めまして。私は本大学の歯学部を卒業後、県外の口腔外科と一般歯科での勤務を経て本大学の口腔顎顔面矯正学分野に大学院生として入局し、この4月より矯正歯科の医員となりました。現在は矯正歯科にて小学生から中学生頃にかけての第一期治療（成長期における骨格的な不調和の改善、乳歯から永久歯への交換の管理）、中高生から成人以降の第二期治療（マルチブラケット装置を用いた歯の排列）を行なっております。卒業後の口腔外科や一般歯科医院での経験を経て、人生100年時代において健康寿命を維持するには、虫歯・歯周病の予防に加え、噛み合わせをコントロールすることの重要性を感じるようになり、矯正治療を専門に学びたいと思うようになりました。歯科医師は患者さんの健康をサポートする立場であることから「まずは自分自身の健康から」ということで、ここ数年は定期的にジムで運動することや良質な睡眠をとること、バランスのいい食事を摂ることを意識しており、続けているうちにそれ自体が趣味・特技になりつつあります。矯正治療という切り口で患者さんの健口から健康をサポートできるよう精進してまいります。

MEセンター

西川 大地 臨床工学技士



令和5度より徳島大学病院医療技術部臨床工学技術部門に入職しました西川大地と申します。臨床工学技士は医学と工学の両分野における専門職で体外循環装置、血液浄化装置、人工呼吸器などの生命維持管理装置を始めとした多くの医療機器の操作・保守管理を行います。一般病棟や新生児集中治療室の機器を管理するME管理センター、血液透析室、救急集中治療部、血管撮影室での心臓カテーテル業務、手術室、内視鏡センターと多くの部署で臨床業務に従事しております。

休日には趣味の一つでもあるツーリングをして目的地を決めずに自由気ままに走っています。また、野球が好きでプロ野球ニュースが一日の楽しみになっています。

今はまだ病院の雰囲気になれることで精一杯で不安なこともたくさんありますが、臨床工学技士という職業に誇りをもって一日でも早く、頼りにされる臨床工学技士になれるように頑張りたいと思います。

東病棟4階（SCU）所属

河井 望歌 看護師



令和5年4月より東病棟4階（SCU）に配属になりました、看護師の河井望歌と申します。当部署は脳卒中センターとして、脳卒中の超急性期から急性期に血管内治療や保存的治療など病態に合わせた治療を必要とする患者さんが入院されています。

学生時代は、COVID-19の影響を受け実習時間や患者さんと関わる時間も少なく、入職時不安な気持ちでいっぱいでした。しかし、脳卒中による神経症状が改善されている患者さんの手足浴を実施した際に「ありがとう」と言ってもらえた時、日々の細やかな観察やケア、リハビリなどが患者さんの回復する力に繋がっていると実感することができ、一つ一つのケアや関わりを大切にしたいと思いました。先輩方からご指導いただきながら、一つずつ正確にできることを増やし、患者さんやご家族に寄り添った看護ができるよう努めて参ります。今後ともご指導のほどよろしくお願いいたします。

医事課医療安全管理係

山本 将史 事務員



令和4年10月に徳島大学病院事務部に採用となりました、山本将史と申します。私が所属する医事課医療安全管理係の業務は“安全管理”と“感染制御”に大きく分かれます。私は主に安全管理を担当しており、業務の1つに「安全管理研修会に関すること」があります。事務として「講師依頼、開催通知、e-learningシステムコンテンツの作成・掲載作業、受講率向上の推進」等を行い、徳島大学病院の医療の質の担保に努めています。

病院職員の一員として業務遂行する上で、徳島大学病院の理念を胸に、患者さんの権利を尊重し、安全で質の高い医療を提供できる環境を整えるため、医師や薬剤師、看護師等の方々と円滑に連携できるよう日々心掛けております。

今後も関係各所の皆様と共に、人間愛に溢れる病院職員を目指してまいります。安全管理について、まだまだ勉強中の身で至らぬ点多々あるかと思いますが、ご指導ご鞭撻のほど、どうぞよろしくお願いいたします。